

千葉県社保協通信

2020年度一 No10 2020年 11月18日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉サカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

介護・認知症

なんでも電話相談

コロナ禍 STOP “介護崩壊”

利用者・家族・介護従事者の声届け 安心の介護を

県社保協

11月11日は「いい介護の日」です。

今年で10回目となった中央社保協主催「介護・認知症なんでも電話相談」が全国24都道府県で取り組まれました。

千葉県社保協は、今回も「認知症の人と家族の会千葉県支部」に協力いただき、中央社保協のフリーダイヤルで実施しました。

NHK昼のニュースやWebニュースでも紹介され、千葉県会場には10件、全国では265件を超える相談が寄せられました。

今回の特徴は、コロナ禍で「入所施設で面会ができない」ことへの悩みや不安が多く寄せられたことです。

千葉会場には「95歳の母親が7月に脳梗塞発症。自宅に戻れないので施設に入所。体調を崩して病院に入退院を繰り返している。要介護5の状態で寝たきりだが、コロナの影響で面会することができない。今後どうしたらいいのか。担当のケアマネが退職したので、どこに相談したらいいのか？」との相談が寄せられました。相談員は「病院の主治医や地域連携室の担当者、地域包括の担当者と話するなどして、何が一番大事なのかを家族で相談して決めるように」とアドバイスしました。



民医連と認知症の人と家族の会から12人が3チームに分かれ交代で待機し、相談にあたりました。

—千葉県後期高齢者医療広域連合議会を傍聴—

高齢者・医療関係者など幅広い県民の声を聴き “75歳以上窓口負担原則2割化反対”を！

千葉県後期高齢者医療広域連合議会定例会は、11月17日（火）午前、千葉市内で開催されました。

一般質問で、和田和夫議員（長南町議会選出・共産）が「75歳以上医療費窓口負担2割化反対」の立場から当局の考えを質し、大木伝一郎議員（匝瑳市議会選出・共産）は、「コロナの影響による病院の減収についても実態把握が不十分」「幅広く高齢者、医療関係者を対象に懇談会や意見交換会を行い、広く県民の意見を聞く」ことを求めました。これに対して当局は、「（2割負担については）慎重な対応を要望しており、国の動向を見ていく」との答弁にとどまりました。

令和元年度一般会計及び特別会計決算、令和2年度一般会計補正予算及び特別会計予算が一括で審議され、地福美枝子議員（酒々井町議会選出・共産）が反対討論を行いました。賛成多数で可決されました。

また「コロナ感染拡大の中、90歳の夫がロングショート中。発熱などの度に施設から呼ばれて駆けつけるが、自治体にはタクシー券などもなく費用負担も大変」などの声も寄せられました。

今回の取り組みを通じて、コロナ禍で介護を受ける人も、その家族も、そして介護従事者も困難な日々を送っていることが明らかになりました。国や自治体の支援が全く不十分で、現場の実態と乖離していることが浮き彫りとなりました。

“STOP 介護崩壊” 署名を広げよう！！

「衛生用品・防護具の安定的供給、介護従事者・利用者へ必要なPCR検査、介護事業所への経済的支援、介護従事者への支援など、新型コロナウイルス感染症対策の強化」「介護の質の向上、安定的な事業所経営、感染症への適切な対応が可能となるよう、介護報酬の大幅な引き上げ、見直しを実施すること」などを国に求める請願署名を広げるとともに、自治体に対しては独自施策の充実を求める声を届けましょう